

# 暮らし見つめて

夏本番、冷えた水が欠かせない季節だ。節約志向や環境への配慮から、水道水が飲み水として見直されている。手軽に一工夫加え、おいしく水分補給をしよう。(杉戸祐子)

## 品質向上

# 味わう水道水



水道水が飲料用として見直されている＝東京都千代田区で

### ■

浜市の会社員男性(三〇)は半年前、自宅の飲み

水を手販のミネラルウォーターから水道水に変えた。市販のポット型の浄水器にくみ置いて炭を入れ、冷蔵庫で保管する。「ペットボトルの購入や再資源化のコストと手間をなくしたかった。水道水は想像よりおいしい」

「明日の水は大丈夫？」(技術評論社)などの著書のある水問題のジャーナリスト、橋本淳司さん(四三)は「地域にもよるが、一九七〇、八〇年代の水道水はカビ臭やカルキ臭などが強かった。最近では都市部を中心に『高度浄水

処理』が導入され、改善された」と話す。「高度浄水処理」とはオゾンや活性炭などで行う水処理法。従来の、薬品を利用する「急速ろ過方式」よりもカビ臭や発がん性物質トリハロメタンなどを多く除去し、水質が向上した。東京都や大阪市などは高度浄水処理した水道水をペットボトルで販売している。

利用者も実感しているようだ。「ミツカン水の文化センター」が今年、都市部の住民を対象に水道水を十地点で採点してもらった調査によると、東京圏六・九点、中京圏

七・七点などで平均七・二点。調査を始めた一九九五年の五・七点より評価は高まっている。

水道水よりおいしく飲むには？ 橋本さんは「塩素をどう取り除くかがコツ」と明かす。消毒に使われる塩素は、水道法施行規則により、水道水中に一定以上残留している必要がある。だが独特のにおいがあり、おいしさにはマイナスだ。

### ■

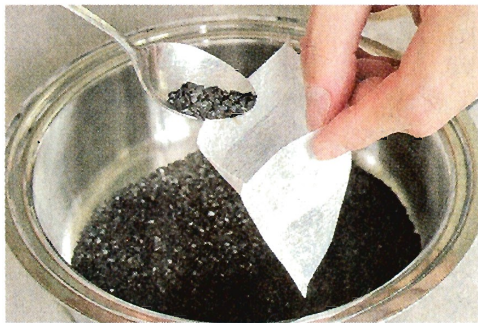
塩素を取り除く二大方法は、くみ置きと煮沸だ。就寝前に水がめにくんで一晩置く

と塩素は揮発する。透明なペットボトルに入れ、ふたをせずに三〜六時間日光に当てても、紫外線で分解される。や



①水をくみ置き、炭を入れておく

②活性炭を焼き、不織布パックに入れる



## くみ置き・煮沸でにおい除去／炭も有用

かんて数分沸騰させて揮発させる方法もある。またレモンなどの果汁を加えると、ビタミンCで中和できる。橋本さんは「集合住宅などで水道水が貯水槽から出る場合、貯水槽の状態でおいしさは変わる」ともう一つの課題を挙げる。活用したいのが炭だ。

くみ置きや煮沸の際に木炭を入れると、汚れやにおいを取りのぞける。冷蔵庫の脱臭剤に使われる粒状の活性炭も有効だ。使用後にアルミホイールに載せてオーブントースターかフライパンで約十分焼くと、吸着したにおいが取れるので、不織布パック(お茶パックなど)に入れて使える。塩素の除去にも有効だ。どちらも週一回煮沸消毒。効果を保つため月一度、木炭は天日干し、活性炭は焼き直す。

水は冷やして飲む。「一〇〜一五度が一番おいしい」と橋本さん。朝一番の水は飲み水に使わない。「夜間滞留した水なので、水道管内のピニールのにおいがついている。朝は一分間出しっぱなしにし、掃除や植木の水やりなどに使って」

橋本さん自身は毎晩就寝前に、水がめに十秒ほどくんで炭を入れ、翌日の飲み水や煮炊き用に使う。「野菜や米を洗っても水の塩素でビタミンが分解されることがなくなったので、おいしさが増した」と意外な効果も。

塩素対策をした場合、日持ちちは落ちる。橋本さんは「くみ置いた水は一兩日中、冷蔵庫でも三日以内に飲んで」と助言する。